人の生活・健康を支援する「生活の質」の向上のために…

## 2024年度

Seijoh University Graduate School of Health Care Studies

# **基**星城大学大学院

健康支援学研究科 健康支援学専攻 修士課程

健康支援学領域

## 人の生活・健康…そして地域を支えるために…

# 健康支援学研究科

## 健康生活を支援するリーダー養成

令和2年版の厚生労働白書が公表されました。我が国の高齢者人口がピークを迎える2040年を見据え、誰もがより長く、元気で活躍できるように、多様な就労・社会参加の環境整備、健康寿命の延伸、医療・福祉サービスの改革による生産性の向上などの取り組みが必要と述べられています。また、2040年に高齢者となった男性の4割が90歳まで、女性は2割が100歳まで生存すると予想されています。まさに、人生100年時代が到来することが分かってきました。

縦断的調査により、高齢者の身体機能が向上し、健康寿命が延伸していると報告されています。しかし、それでも平均寿命と健康寿命の間には男性で約9年、女性で約12年の開きがあり(2016年)、さらなる健康寿命の延伸が必要です。

本研究科では、健康支援を「中高齢者および障害者の健康生活を保持する活動を支援 する術を中心に学び研究する学術領域」と定義しています。2040年を見据え、障がいや



星城大学大学院 研究科長 太田 進教授

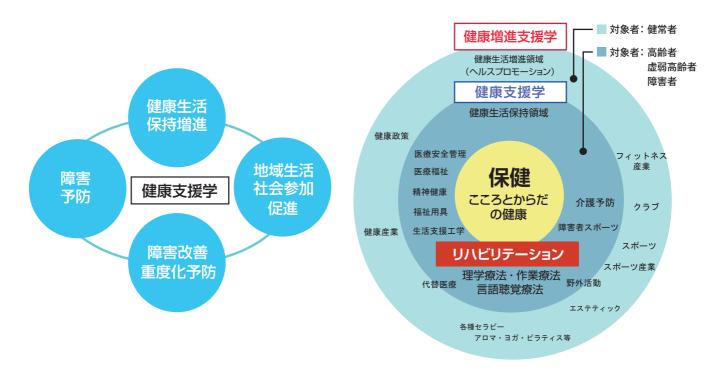
心身機能低下を呈する中高齢者に対し、医学的な支援のみではなく、それぞれのライフスタイルに合わせ、地域生活の場で社会参加を含めた健康支援が今後より重要になると考えられます。本研究科では、健康支援に関連する幅広い知識と技術の修得をはかり、地域で指導的役割を果たせる人材(高度専門職業人、研究者)の養成を目指します。

さて大学院では、総合的に研究を学び実施することを通して科学性を修得していきます。研究は、先行研究による既知の情報を広く正しく集め、まだ解明されていない自分の証明したい目的(未知)のために既知の情報を使用した上で、研究デザインを構築し、研究を実施し自分の考え(仮説)を証明していきます。その証明は論理的である必要があります。この研究経験を通して得られた知識と努力は、その後の臨床、地域生活、社会参加を含めた健康支援、研究活動に活かせるものとなるはずです。大学院で学ぶということは、科学的に問題を解決していく能力を身につけることと思います。

是非、本研究科の扉を叩いてみてください。

## 健康支援学とは?

『中高齢者および障害者の健康生活を保持する活動を支援する術を中心に学び研究する学術領域』



健康支援学の概念

## 健康支援学研究科設置の背景

## ■地域の抱えている課題

- ①障害を抱えた人々の疾病、障害の多様化に対応した高度なリハビリテーション支援に 係る知識・技術の開発と普及。
- ②人々の健康と長寿を保障する生活支援、疾病・障害予防プログラムと支援技術、および 支援システムに係る知識・技術の開発と普及。
- ③リハビリテーション・生活健康支援分野の従事者を統括する指導的人材養成。保健・ 医療・福祉従事者の再教育・キャリアアップを保障する高度な教育機関が必要。

地域が必要とする 保健・医療・福祉分野における 指導的役割を果たせる 人材を養成するために

健康支援学研究科を 2008年4月に設置

## 修了生インタビュー

鷹氏 昭佳 さん(2022年3月修了) (作業療法士としてクリニック勤務)



●入学の動機

作業療法士として仕事にあたる中で研究などに関する知識がなく、その手法を学びたいと考えました。 また、大学院で幅広い知見を得ることができると考えたため、自身のキャリアアップにつながると考え、 進学を決めました。

#### ●修論テーマと内容

『中規模都市T市在住高齢者の生活実態調査と健康支援策に関する研究』

T市在住高齢者を対象に調査を実施し、生活環境 を考慮した高齢者の健康支援策を考案することを目 的とし、T市の農地などの環境を活かすことや多世 帯家族のコミュニケーションを促進すること、アクセ スのよい施設でのイベントの開催を考えました。

#### ●大学院を修了してよかったこと

大学院で研究手法について学んだことで研究論 文などを読む際に多角的に内容を解釈できるように なったと感じています。また、患者さんのリハビリに おいても健康支援学の視点を持って介入することが できるようになったと思います。 村上 慈葉 さん(2022年3月修了) (理学療法士として病院勤務)



#### ●入学の動機

私は大学卒業後、そのまま大学院へ進学しました。 研究を通して、情報収集力や文献読解力が身につき、 新たな着眼点を見出すことで臨床課題の解決につな がると考えます。アルバイトで理学療法士として働く こともできるため、研究と臨床、どちらもスキルアップ できると思い、進学を決めました。

#### ●修論テーマと内容

「変形性膝関節症に対する腹部引き込み歩行が膝 関節機能および胸椎後弯角度に与える効果につい て」

歩行時のメカニカルストレスを減少させる方法として、歩行修正が注目されています。腹部引き込み歩行介入が変形性膝関節症例の膝機能・膝痛、姿勢に与える効果を検証しました。

### ●大学院を修了してよかったこと

研究や多くの文献を読んでいく中で、適切な情報 を選択する能力や疑問を解決する能力などを身に着 けることができました。また、講義を通して様々な分野 について深く学び、視野が広がったと感じています。 鈴木 隆史 さん (2021年3月修了) (理学療法士としてクリニック勤務)



#### ●入学の動機

増え続ける若い理学療法士の中で、どう差別化を 図るか考えていました。学部在籍中から進学を視野に 入れており、臨床に出て1年間、外の世界で学んだ結果、キャリアを積むために必要な研究法を学びたいと 考え改めて進学を決意しました。

#### ●修論のテーマと内容

『高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤 前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果に ついて!

病棟や施設でよくみられる高齢者は"座らせきり"に よる仙尾骨部の褥瘡リスクを抱えています。一般的な 搬送用普通車椅子を用いて褥瘡予防ができるか検証 しました。

#### ●大学院を修了してよかったこと

現在小児の外来リハビリに携わっています。研究法 や修士課程の講義を通して学んだ知識や経験は勿論 ですが、修士という学位は、若い理学療法士に対する患 者さんのご両親が抱く懸念に対して、社会的信用を与 えている意味でも取得してよかったと考えています。

## 在院生インタビュー

村上 ま比呂 さん (理学療法士として病院勤務)



私は将来、理学療法士養成教育に携わりたいと思っており、臨床2年目で大学院へ進学しました。大学院の講義では、研究能力を身につけるための知識はもちろん、リハビリテーションの臨床に活用できる知識も身につけることができます。現在、私は修士論文の研究を進めていますが、研究データを見て、客観的に考察し、問題や課題があれば原因を追究するといった研究への取り組みは、評価問題点の抽出、治療仮説立案といった理学療法の臨床推論と似ています。そのため、私は大学院の修学を通じて理学療法士としての臨床力の向上にもつながると感じています。修士課程で学んだことを、臨床能力の向上、臨床の後輩育成に活かし、目の前の患者様に貢献できる研究をしていきたいと考えています。

石橋 心 さん (理学療法士)



私は星城大学卒業後、そのまま大学院へ進学しました。大学院では応用的な知識を身につけることができ、次の日には臨床で実践することができます。 講義内で自分の興味のある分野から論文を探すため、楽しく情報収集力、文献検索力、考察力を身につけることができます。

私は、整形外科クリニックで非常勤として働きながら講義を受けています。インプットだけでなく、すぐにアウトプットできる環境にあります。そのため、講義内容の定着率も上がり、より楽しい講義となります。非常勤であるため、自分の時間も作りやすく研究、講義以外でも自分の趣味や他の資格への挑戦わできます。

時間を有効活用して、多くのことを学ぶことができる良い院生生活になると思います。

加藤 彩菜 さん (作業療法士として病院勤務)



私の勤務する病院では、脳血管疾患整形疾患内部疾患等、様々な患者さんが入院しています。その中でも私は、脳血管疾患の患者さんに対してリハビリテーションを行うことが多くあります。脳血管疾患では重度から軽度まで様々な症状があります。これまでの研究で効果があると言われているリハビリテーションも多々ありますが、中には適応する方が限られるものもあります。私はより重度の方に対しても効果のある質の高いリハビリテーションを提供したいと考えています。そのために、研究を通して新たな可能性を見つけていきたいと思います。

また、研究力に長けている星城大学の先生方のもと勉強し、自分自身の研究力も身に付け今後の作業療法に生かしていきたいと考えています。

## 教育方法について

## 大学院の概要

## ■研究領域と アドミッションポリシー

## 健康支援学研究科

(健康支援学専攻)

## 健康支援学領域

障害・リハビリテーションや健康支援・障害予防のための環境と方法を科学する

## アドミッション・ポリシー

星城大学大学院健康支援学研究科では、リハビリテーション支援及び健康支援、障害予防支援の分野において最新の知識・技術を普及できる専門性を有する指導者並びに研究教育者の養成を目指しています。そのために、健康支援学研究科では次のような入学者を求めています。

- 1. 人や社会と健康に関する理解を深化させ地域社会で貢献を目指している意欲的な方
- 2. 保健医療福祉分野の実践家や教育者として探究心旺盛な方
- 3. 保健医療福祉分野で高度な知識と技術を備えた指導者を目指している方

## 教育目標

## ■どのような人材を育成するか?

- ▶リハビリテーション分野における指導的な人材の養成
- ▶生活健康支援分野における指導的な人材の養成
- ▶保健・医療・福祉の現代的課題に取り組む高度な研究・教育者の養成

## 社会人も安心、効果的に学べる講義システム

## 遠隔講義システム

通学が困難な遠隔地域の方でも、テレビ会議システムを活用して自宅や職場でリアルタイムに受講できます。双方向型なので、意見を交わしたり、研究指導を受けることも可能です。

## 昼夜開講制

平日昼夜間講義と土曜日の集中講義で、仕事と研究の両立が可能です。

#### 夜間:

1時限目 18:30 ~ 20:00 2時限目 20:10 ~ 21:40

## 長期履修制度

基本修業年限は2年ですが、3年または4年の年限を選択することができます。その場合の学納金は2年間分を修業年限で分割します。

## 研究費奨励

院生1名あたり年間20万円までの研究費を申請できます。 ※長期履修の場合は、全期間で総計40万円

## 遠隔講義以外の単位受講方法

演習科目は、15コマのうち一部を対面の集中講義で 実施し、単位を取得するケースがあります。

#### (例)生活健康支援学演習I

遠隔講義 1日1コマ×3日間 = 3コマ 対面での集中講義 1日4コマ×3日間 = 12コマ 合計 15コマ

## 修士論文のテーマで国際学術専門誌掲載を支援

Sato K et al.. Effects of dance video game training on cognitive functions of community-dwelling older adults with mild cognitive impairment. Aging Clin Exp Res. 2023.

Yasui J et al.. Preoperative loss of knee extension affects knee extension deficit in patients after anterior cruciate ligament reconstruction. Orthop J Sports Med. 2023.

## カリキュラム

## 教育課程編成の特色

従来のリハビリテーション系大学及び大学院で行われてきた障害を主体とした研究や技術開発のみならず、人が健康に生活するということ について理解し、健康を維持すること、回復すること、健康を阻害する要因を排除することについて体系的に研究することを特色とします。

- ●下表は2023年度のカリキュラムです。 ●全科目のうち一部、演習科目は遠隔で受講できない場合があります。
- ●健康支援学特別研究は、従来の修士論文研究あるいは特定課題研究、いずれかの種別を選択します。

| 種別 | 領域     | 科目                 | 単位数 | 必修<br>選択 | 期  | 曜日   | 時限   | 遠隔      | 修得単位<br>合計30単位 |
|----|--------|--------------------|-----|----------|----|------|------|---------|----------------|
| 基  |        | 健康支援学特論            | 2   | 必修       | 前期 | 水/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 礎科 |        | 健康支援学研究法           | 2   | 必修       | 前期 | 水/前半 | 1、2限 | 可       | 必修<br>6単位      |
| 目  |        | 健康行動支援学特論          | 2   | 必修       | 後期 | 木/前半 | 1、2限 | 可       |                |
|    |        | 運動障害学特論 I          | 2   | 選択       | 前期 | 木/前半 | 1、2限 | 可       |                |
|    |        | 運動障害学特論 Ⅱ          | 2   | 選択       | 後期 | 水/前半 | 1、2限 | 可       |                |
|    |        | 病態運動学特論            | 2   | 選択       | 前期 | 金/前半 | 1、2限 | 可       |                |
|    |        | 認知機能障害学特論          | 2   | 選択       | 前期 | 金/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 基  | 健      | 精神障害学特論            | 2   | 選択       | 前期 | 月/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 本  | 康      | リハビリテーション健康支援学演習 I | 2   | 選択       | 後期 | 金/前半 | 1、2限 | 可       |                |
| 科  | 支      | リハビリテーション健康支援学演習 Ⅱ | 2   | 選択       | 後期 | 火    | 1、2限 | 集中講義は不可 |                |
| 目  | 援      | 生活活動学特論            | 2   | 選択       | 前期 | 月/前半 | 1、2限 | 可(一部不可) |                |
|    | 学      | 生活環境学特論            | 2   | 選択       | 後期 | 水/後半 | 1、2限 | 可       | 選択14単位         |
|    |        | 運動健康支援学特論          | 2   | 選択       | 前期 | 火/前半 | 1、2限 | 可       | (演習2単位含む)      |
|    |        | 心理社会健康支援学特論        | 2   | 選択       | 後期 | 金/後半 | 1、2限 | 可       |                |
|    |        | 生活健康支援学演習 [        | 2   | 選択       | 後期 | 月    | 1限   | 集中講義は不可 |                |
|    |        | 生活健康支援学演習 Ⅱ        | 2   | 選択       | 後期 | 火    | 1、2限 | 集中講義は不可 |                |
| 関  |        | 公衆衛生学              | 2   | 選択       | 後期 | 木/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 連  |        | 基礎統計学              | 2   | 選択       | 前期 | 木/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 科  |        | 医療マネジメント学特論        | 2   | 選択       | 後期 | 月    | 1限   | 可       |                |
| 目  |        | 医療安全管理学特論          | 2   | 選択       | 前期 | 火/後半 | 1、2限 | 可       |                |
| 総合 | 修士論文研究 |                    |     |          |    |      |      |         |                |
| 科  |        | 健康支援学特別研究          | 10  | 必修       | 通年 |      |      | 可       | 必修10単位         |
| 目  | 特定課題研究 |                    |     |          |    |      |      |         |                |

| 畄 修             | 基礎科目      | 必修 | 6  |
|-----------------|-----------|----|----|
| 単 修<br>位 数<br>要 | 基本科目·関連科目 | 選択 | 14 |
| 业必              | 総合科目      | 必修 | 10 |
| 数 要             | 取得単位数     |    | 30 |

## 教育・研究 スケジュール

| 学年  | 月  | 項目   |
|-----|----|--|
|     | 3月 | 新入生ガイダンス<br>前期履修科目登録<br>遠隔講義研修会                            |
| 1年次 | 4月 | 入学式<br>前期遠隔講義制度利用申請書の提出<br>前期講義開始<br>研究指導教員決定<br>研究計画の倫理審査 |
|     | 7月 | 研究計画書の提出   |
|     | 9月 | 後期履修科目登録<br>後期遠隔講義制度利用申請書の提出<br>後期講義開始                     |
|     | 2月 | 中間報告会発表申請書の提出<br>中間報告会要旨の提出                                |
|     | 3月 | 中間報告会  |

|     | 4月   | 利用退降調報利度利用申請書の提出<br>前期講義開始<br>可なお着数を決定 |     |     | 9月       | 後期遠隔講義制度利用申請書の提出<br>後期講義開始 |   |
|-----|------|--|-----|-----|----------|----------------------------|---|
| 1年次 |      | 研究指導教員決定                               | 2年次 | 10月 | 論文題目届の提出 | ]                          |   |
| 1年次 | 7月   | 研究計画書の提出                               |     | 2年次 | 12月      | 論文発表会用論文要旨の提出              |   |
|     | ///  |  |     |     | 1 2 / 3  | 論文発表会                      |   |
|     |      | 後期履修科目登録                               |     |     |          | 論文の提出                      | 1 |
|     | 9月   | 後期遠隔講義制度利用申請書の提出                       |     |     | 1月       | 論文審査                       |   |
|     |      | 後期講義開始                                 |     |     |          | 論文審査結果の報告                  | 1 |
|     | 2月   | 中間報告会発表申請書の提出                          |     |     | 2月       | 学位授与の適否の議決                 |   |
|     | ∠H   | 中間報告会要旨の提出                             |     |     |          | 製本用論文の提出                   |   |
|     | 3月   | 中間報告会                                  |     |     | 3月       | 学位授与式                      |   |
|     | 会を実施 |  |     |     |          |                            | - |

学年

前期履修科目登録

前期遠隔講義制度利用申請書の提出

遠隔講義研修会

前期講義開始 後期履修科目登録

3月

4月

## 健康支援学領域

## 健康支援の領域における指導的な人材の養成

## 指導教員・研究内容一覧

※印は研究指導補助教員

- ◆太田 進 教授
  - ○中高齢者の運動機能向上、維持および介護予防に関連する研究 (ICTを含む機器開発、動作支援に関するものづくり)
  - ○運動器を対象としたバイオメカニクス研究
- ◆山田 和政 教授
  - ○高齢者の日常生活行動と健康支援に関する研究
  - ○高齢者の転倒に関する研究
- ○医療質・安全管理体制再構築のための新たな安全管理手法と効果検証 ○医療オペレーション・マネジメントのためのNon-Technical Skills 強化の新たな手法とその効果検証
- ◆古川 公宣 教授
  - ○身体運動分析・筋機能分析に関する研究
  - ○表面筋電図波形分析手法に関する研究
- ◆坂井 一也 教授
  - ○精神障害者リハビリテーション・地域生活支援に関する研究 ○精神障害者スポーツに関する研究
- ◆筒井 秀代 教授
  - ○国際生活機能分類 (ICF) を用いた身体的・心理社会的問題の アセスメント方法に関する研究
  - ○混合研究法を用いた難病患者に生じる生活問題の要因の究明

- ◆越智 亮 准教授
  - ○転倒回避動作のバイオメカニクス研究 ○バランス能力改善を目的とした運動療法に関する研究
- ◆林 浩之 准教授
  - ○脳卒中後の生活機能に関する研究
- ○神経系作業療法学に関する研究
- ◆岩井 宏治 教授※
  - ○内部障害 (呼吸・循環・腎代謝) 患者や集中治療室患者の リハビリテーションの効果に関する研究
- ○身体活動量やヘルスリテラシーに関する疫学研究
- ◆冨山 直輝 准教授※ ○高齢者の介護予防に関する研究
- ○脳卒中片麻痺患者の姿勢制御に関する研究
- ◆中谷 直史 准教授※
  - ○液性因子による骨格筋肥大メカニズムの研究
  - ○骨格筋萎縮予防効果を持つ化合物の探索研究
- ◆大野 善隆 准教授※
  - ○骨格筋の萎縮・肥大・再生のメカニズムに関する研究
- ○筋萎縮の予防、筋肥大・再生の促進を引き起こす刺激に関する研究
- ◆林 尊弘 講師※
- ○フレイル予防・転倒予防を中心とした介護予防に関する疫学研究 ○リハビリテーション対象患者のサルコペニアに関する研究

## 修了者論文テーマ(抜粋)

- ●回復期低栄養脳卒中患者における栄養状態の経過や栄養状態を考慮した運動療法の実施が日常生活動作の改善に与える影響
- ●ACL再建術抜釘時における膝関節軟骨変性と膝関節機能、歩行対称性の関連について
- ●スクワット動作時における脛骨回旋角度変化が膝関節内側半月板逸脱量に与える影響について
- ●長期入院統合失調症者の口腔機能と歌唱活動による変化に関する探索的研究
- ●変形性股関節症患者における同側および反対側膝関節に疼痛のある症例の特徴
- ●中規模都市T市在住高齢者の生活実態調査と健康支援策に関する研究
- ●変形性膝関節症に対する腹部引き込み歩行が膝関節機能および胸椎後弯角度に与える効果について
- ●高齢者の車椅子座位における仙骨座圧及び骨盤前傾に対する形状記憶合金コルセットの装着効果について
- ●地域在住高齢者の運動教室参加による動脈硬化指標の変化
- ●脳卒中患者における呼吸筋力と体幹機能・上肢機能の関係性について
- ※●ダンスビデオゲームが軽度認知機能障害を有する地域在住高齢者の前頭葉機能に与える影響
- ●通いの場参加者におけるフレイルの実態と専門職関与による変化に関する研究
- ※●膝関節前十字靭帯再建術における膝伸展制限の有無と術後伸展制限の残存について:前向きコホート研究
- ●脳卒中片麻痺患者の歩行解析における二次元動作解析システムを用いた膝関節角度計測の信頼性と妥当性

※国際学術専門誌に掲載

## 3年長期履修者の1年次科目履修例

#### 講義とは別に研究指導が毎月1~2回行われています

### ●前期

| 曜日                 | 月 | 火 | 水                         | 木     | 金 |
|--------------------|---|---|---------------------------|-------|---|
| 1限目<br>18:30-20:00 |   |   | 前半:健康支援学研究法<br>後半:健康支援学特論 | 基礎統計学 |   |
| 2限目<br>20:10-21:40 |   |   | 前半:健康支援学研究法<br>後半:健康支援学特論 | 基礎統計学 |   |

#### ●後期

| 曜日                 | 月 | 火 | 水 | 木                        | 金          |
|--------------------|---|---|---|--------------------------|------------|
| 1限目                |   |   |   | 前半:健康行動支援学特論<br>後半:公衆衛生学 | リハ健康支援学演習Ⅰ |
| 2限目<br>20:10-21:40 |   |   |   | 前半:健康行動支援学特論<br>後半:公衆衛生学 | リハ健康支援学演習Ⅰ |

## 教員からのメッセージ

厚生労働省による「令和4年簡易生命表」によれば、我が国の平均寿命は、男性81.47歳、女性87.57歳と報告されており、人生を80年以上もエンジョイすることができるともいえます。また、市区町村では、2025年に向けて、高齢者および障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくための地域包括ケアシステムの構築が進められています。しかし、これから先も今の生活を送り続けるためには、年老いても"健康"でなければなりません。星城大学大学院健康支援学研究科では、字の如く「健康を支援するための研究」をテーマとしています。私自身は、主に高齢者および障がい者を対象に、「生活」をキーワードとして、健康な毎日を送るための生活行動や生活環境のありかた、安心で安全な生活を送るための介護・転倒・障害予防策について追求しています。健康生活を支援していくための知識と技術を学ぶとともに、新たな発見を求めて、共に研究に取り組んでみませんか!



山田 和政 教授

人が自立した日常生活を送るために「健康」は欠くことのできない必須事項です。これを維持、獲得するために「我々が支援できることは何なのか?」また、「その方法はどうすれば良いのか?」を摸索、追求するための学問が「健康支援学」です。本研究科では幅広い領域からヒトの「健康」を見つめ、その方法を見出すための基本的研究スキルと論理的思考過程を学ぶことを目的としています。

私の担当分野では、運動解析や電気生理学を主体としてヒトの運動を観察し、身体運動学、病態運動学の分野から 人の健康を支援する方策を検討しています。日常的に繰り返される動きの中に隠されている局所への負担や疾患に よる運動形態の変化などに目を向けると、明らかにされていることはそれ程多くありません。皆さんとともに、ひとつ でも多くの疑問を解決していこうと考えています。



古川 公宣 教授

「健康な状態で毎日を過ごしたい」これは、多くの人が望んでいることだと思います。多くの人々が、「健康な状態」で毎日を過ごすためには、どのような支援が必要でしょうか?その支援方法を考案し、開発していくのが「健康支援学」です。健康を支援する方法の考案・開発のためには、まずは現在の人々の健康状況や健康に対する認識、保健行動などを知ることが必要です。これらの現状を知ることで、現在の問題点や今後の課題が見えてきます。健康状況や健康に対する認識、保健行動の現状分析や課題の抽出を行うためには、数量的なデータを使った解析だけではなく、人々の語りのデータを使った質的な解析も有用です。数量的なデータと質的なデータの両方を用いて、新たな健康支援の方法を一緒に考案・開発していきましょう。



筒井 秀代 教授

精神障害者は、1999年の約204万人から毎年約10万人ずつ増え続けて、2017年の調査では約420万人と8年間で倍増しています。また、人口減少、少子化、超高齢者社会の我が国では、メンタルヘルス、精神障害者の就労及び社会参加が大きな課題となっています。従って、精神障害者に対するリハビリテーションに関する研究は、重要な分野です。

また、健康生活にはスポーツが不可欠です。する、みる、支援の3つに誰しもが関わっていると思います。運動が苦手という方も、散歩、体操、ストレッチ、ヨガなどは行っています。スポーツ基本法において、障害者スポーツの振興を示したり、パラリンピックが注目されたり、障害者スポーツ分野の研究が注目され始めました。星城大学大学院で、共に学び、研究しませんか。



坂井 一也 教授

## 3年長期履修者の2年次科目履修例

### 講義とは別に研究指導が毎月1~2回行われています

### ●前期

| 曜日                 | 月 | 火         | 水 | 木        | 金 |
|--------------------|---|-----------|---|----------|---|
| 1限目 18:30-20:00    |   | 運動健康支援学特論 |   | 運動障害特論Ⅰ  |   |
| 2限目<br>20:10-21:40 |   | 運動健康支援学特論 |   | 運動障害特論 I |   |

#### ●後期

| 曜日                 | 月           | 火 | 水        | 木 | 金 |
|--------------------|-------------|---|----------|---|---|
| 1限目 18:30-20:00    | 医療マネジメント学特論 |   | 運動障害特論Ⅱ  |   |   |
| 2限目<br>20:10-21:40 |             |   | 運動障害特論 Ⅱ |   |   |

## 大学院入学試験概要

## 募集定員12名

## 学位

保健学

## 出願資格

一般選抜試験 社会人選抜試験 学内特別選抜試験

#### 出願にあたって

志望する領域の研究指導教員と研究テーマ・履修期間等について事前に相談することをお勧めします。

出願前に出願資格審査が必要な場合もあります。詳細については、大学院ホームページまたは募集要項をご覧ください。

## 出願期間、試験日程、試験会場など

#### 前期募集

【入学試験日】 2023年11月4日(土)

【出願期間】 10月2日(月)~10月12日(木)

【合格発表日】 11月10日(金)

【試験会場】 星城大学 本部東海キャンパス

#### 後期募集

2024年2月24日 (土)

2月5日(月)~2月15日(木)

3月4日 (月)

星城大学 本部東海キャンパス

※出願資格、出願期間日等は、星城大学大学院ホームページまたは募集要項にてご確認ください。

### 入試相談会

【日 時】 2023年8月19日(土) 13:30~15:00

オンライン開催

事前の申し込みが必要です。 右のQRコードより参加登録をお願いします。



## **ACCESS MAP**

#### ■星城大学本部東海キャンパス・星城大学大学院



## ■星城大学名古屋丸の内キャンパス・星城大学大学院



# **4**星城大学大学院

### ホームページ https://www.seijoh-u.ac.jp/graduate/ Eメールアドレス

nyushi@seijoh-u.ac.jp



## 本部東海キャンパス

〒476-8588 愛知県東海市富貴ノ台二丁目172番地

## 名古屋丸の内キャンパス

〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目4番10号

FAX **052-601-6010**